NIE実践報告

１．タイトル：現代社会の授業での新聞活用～あなたの「HAPPY　NEWS」を選ぼう

２．学校名

兵庫県立佐用高等学校

３．実践者名（代表者名）

藤本慎司

４．学年

第3学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

公民・政治経済授業　普通科生徒36人(選択授業)

６．単元（本時の学習課題）名

あなたの「HAPPY　NEWS」を選ぼう！

７．目標(狙い)

新聞は主にテレビ欄・スポーツ欄しか読まないという生徒達にも新聞をすみずみまで読ませたいというのが本実践の狙いである。

８．評価の視点

新聞記事の中からそれぞれの「HAPPY　NEWS」(心温まるニュース)を選び、自らの意見を的確に表現できるようになったかどうか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「HAPPY　NEWS2008」の要項説明と昨年度の優秀作品を読ませる(1時間目)各自で「HAPPY　NEWS」を選び、感想を書く(2・3時間目)優秀作品をまとめた小冊子から最優秀作品を選び感想を書く(4時間目)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1時間目「HAPPY　NEWS2008」の募集要項を説明し、授業を利用して全員が応募することを伝える。
昨年度の優秀作品がまとめられた「HAPPY新聞」を全員に読ませ、課題をイメージさせる。
2時間目　教室に持ってきた多数の新聞を各自で読み、「HAPPY　NEWS」を探す。よい記事が見つからない場合は、新聞を何度でもとりかえていいことにする。「HAPPY　NEWS」を見つければ切り抜き、感想を用紙に記入する。担当教師は積極的には生徒の動きに口出しをせず、質問があった場合に対応することにとどめ、生徒の作業を見守る。
3時間目　前時の作業の続きを行う。よい記事が見つからないものに対しては、紙面のどこにどういう記事があるのかを指摘する。早くに感想文まで書けた生徒については、まだ記事が見つかっていない生徒のニュース探しの手助けをしてもよいものとする。時間内に完成できなかった者は宿題とし、学期末の課題点に参入する。4時間目　優秀な作品をまとめた小冊子を読み、その中で最も優れていると思うものを一つ選び、その作品に関する感想を書く。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

成績評価に組み込むことと「HAPPY　NEWS　2008」に応募することで、生徒のモチベーションが高まり、記事を真剣に探す姿が見られた。ユニークな記事を見つけた生徒がおり、優秀作品をまとめた小冊子への関心が高く、よく読んでいた。卒業考査では、この取り組みで新聞を読むようになったという生徒も何人かいた。

12．成果と課題

成果①新聞を読む習慣のない生徒も含めて、生活面、経済面、社会面等々、新聞をすみずみまで、しかも多い生徒では10紙以上を読むことができた。②社会には暗いニュースばかりで、心温まるニュースなどはなく、あったとしても新聞には載っていないという偏見は完全に払拭できた。③優秀な作品を小冊子にまとめ生徒に返すことで、それぞれ個性があるという他者理解に役だった。
課題　1クラスだけの取り組みを学校全体にどのように拡げていくか。